

---

## Bitter -40-

ま ϕ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Bitter -40-

### 【ZPDF】

Z6252D

### 【作者名】

まゆ

### 【あらすじ】

タイムリミットは40分。40分以内にコイツに「チョコあげる」の一言を言わなければいけない。そして、2人であるゲームをすることになった。勝てばもらってくれる。負ければ違う誰かに告白・・・

White より 濃く

Milk より 色深く

Bitter 40

「んでさあ、あいつおかんだけ  
やねんでえ（笑）かわいそいやでなあ^ ^」

季節は冬

正月も終わり2月に入ったかと思うと  
1週間が経ち、ヴァレンタインで  
（バレンタイン）が  
今年も近づいてきた。

2月13日 4限目の英語の授業

隣のコイツとの話題は もちろん ソレ。  
「チョコあげる」の一言を切り出さなければ  
今年も 友ちよこだけで 過ぎ去る。

タイムコマットは40分

・・・

『なんなん、あんたもおかんだけやないの?』

「ちょっと皮肉つたらしく書いてみたものの、ふつとあたしを見下したような笑い方をして、コイツはこう言い放つた。

「オレは、幅跳びの『元』も『元』もいるやん」

はああああああ？！？！？！？！  
いせやさんせせん いせや――――ん――！  
誰じや せつせー！

つて。コイツ 安田光汰 は  
あたしのものじゃないやんか (・A・)

# あたし 常盤 真奈 は

このノリで行くと こいつが 好き。

いや、ノリとか空氣とかじやないけどね。

普通のところは

『ええなあ、ええなあ』

嬉しそうに笑う顔もまた、かわいい。

「しかも 本命つ  
！」

あー、もつまじで その幅跳びの口  
いらん 泪  
オネガイやから 流れてほしい。。。

『んじゃあ、おかんと幅跳びの口だけ、と。』

「んー、まあしいでいえばいいやな」

『他の口は?』

「知りーんでも当田は靴箱ひき口・・・・・」

『死ねばええのこ』

「「Kouta Stand up. Read book!」  
「うえつ?ーあーこれやね!」」Miki is playing  
tennis. but Miki play basket ball  
too.」

パチパチパチパチ

「「Oh! Very good! thank you」

「You are Welcome んふふふ(笑)」

ヤバい・・・

あと25分。

「お前は？」

『ふえ？』

「お前は誰かにあげへんの？」

『桜ちゃんとー、実帆とー、紗奈ちゃん先輩とー、・・・』

「全部 女やんけ」

「ふつ と笑いながらあたしを見る。

「男 は？」

『ペツトの 太郎』

「あほか。人間じや。」

『おとん』

「だーもーーお前は通じへんなあー！」

『だつてビーセ あたしのなんか誰もいいらんやねー。』

「寂しじやつやなあ。」

『まあねえ、ひねくれたコやからじゅーないわあ（笑）』

「よつしゃ。わかった。今からゲームしよつや。オレが負けたら お前のチヨコもろたるわ。オレが勝つたら 友田トモダがすきつて友達に言え。」

友田は、クラスの中でも浮いてるコ。ましてや、カッコよくもなれば おもしろくもない。勉強大好き 学校嫌い みたいな。すつじい苦手なコ。

だつて、勉強大ツ嫌い 学校大好きな あたしにとつて 絶対 無理。

でも、チヨコ受け取つてくれるなんで？

よつしゃ。やつたろやないかあああ！

『ええよ。』

「よつしゃ。そしたらお前の前の前のヤツに済しゴムのカスを投げる。気づかれたら負け。」

『ん。』

よつしゃ やるでえ の勢いで光汰が投げた。

その口の首筋に当たった。

気づくか

気づかないか――――――

『・・・・何してんねん』

やたああああああああああああ(、 、 、 、 )

『なんや、 後ろからカス飛んできたんやナビ  
お前、 ひやうつけ。』

「あー、 じめーんつ オレの手が無意識につ ！」

『無意識につ ！…じゃねえよ！絶対先生に言つたるー  
先生に言つたー るー 先生に言つたー るー』

「桜井くん、 許したつてくれへん？」

『言つたー るー 言つたー るー』

「「Sakura... When do you read?」

『Sorry.

・・・』

桜井は、教科書を読み始めた。

「負けたしー 涙」

『ふふふふふつ』

「んじゃあ、ありがたく いただきます」

『りょーかい』

翌日 当日

2月14日。

『光汰!』

「あ、」

『これ・・・』

赤くなりながらそつと  
水色の小さな箱を手渡した。

『すき！・・・ほんまにすきやねんけど！』

うえ？なんか口が勝手に  
意味不明なことを言った。

光汰は照れたと思つたらこちらを向いて  
あの、皮肉つたらしい笑い方で

「誰の口トガ？」

と言い返してきた。

『んー／＼／＼』

言わすんか

この恥ずかしがりに

言わすんか・・・・

「うううううううう オレもすまやぢつ

それは、それは、

ほろ苦く

White より濃く

Milk より色深く

ほじよこ甘やか

溶けてゆく

・・・・

Happy End

NEXT

YOU?

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6252d/>

---

Bitter -40-

2010年10月12日07時18分発行